

テーマ 「リフチャレ会～教員個々の成長が組織の教育力の質の向上へ～」

リフチャレの語源：3つのR refresh（元気になる） reflection（振り返る） reform（改善する）

カテゴリー：⑤その他（人材育成）

学校概要：学校名：福井県立看護専門学校 所在地：福井県福井市四ツ井2丁目8-1 課程名：3年課程
1学年定員数：40名 修業年限：3年

【内容】

リフチャレ会の発足まで：当校の教員の経験年数が7年以上の割合が全体の半数以上、看護師経験年数も平均13年以上であり、教育実践力は高く経験値も豊富である。特に新人教員は臨床と教育の場にギャップを抱え苦慮しながら学生指導にあたっている。教員の業務は個人で担当する内容も多く、多重課題となり教員が負担に感じている。このような中で、新人教員の困りごとに気づかない場合も多く、成長の機会を逃し続け、自己効力感が低迷している状況が伺えた。そこで中堅教員が中心となり、職位や経験に関係なく、教育に関する困りごとや講義実習、学年運営等について振り返り語りあえることがまず必要ではないかと教務会で職員に働きかけ、同意が得られた。令和4年度に2回開催したが、令和5年度は継続していくために1回/月の開催とし、テーマも自分たちで抽出したのから、順に話し合いグループの編成もくじ引きで毎回異なるメンバーで会を実施している。

リフチャレ会の実施

目的：リフチャレ会の機会を設けることで教育実践能力の向上を図る

意義：共に成長し合える職場風土

4月テーマ：学生指導のあり方（主体性・自主性・サポートの難しさ）

5月テーマ：面白い授業、つまらない授業、学生の反応をどう捉えるか

実施後の参加教員の意見・感想

- 1年目：他の教員の経験が聞けて参考となり、不安も和らいだ。
- 3年目：先輩教員が何を大切にしているのか教育観、指導観を聞けるのがとても勉強になる。
- 4年目：先輩の教員と自分の考え方や指導力を比較し落ち込むことが多いが、リフチャレ会で助言をもらえたり経験談を聞き、今の悩みもこれからつながることを感じた。経験を重ねていくことへの不安が少し軽くなったように思う。
- 5年目：同僚との現状の共有や相談ができるようになったことで、私の不安に思っていることが私だけではないことがわかったり、解決に近づくこともある。初めてから2年、このリフチャレの時間の活かし方もわかり始めた今日この頃。
- 6年目：自分の体験が若い先生の役立ち、成長できるきっかけになるとうれしいなと思う。
- 8年目：新人の頃にこんな会があるとよかった。自分の考えていることを再認識する機会になり、考えを整理できる。
- 9年目：普段聞くことができない個々の教育観を共有できた。学生の教育につながると思う。
- 10年目：学生の対応や自分が感じたことを共有できる機会になっています。対応の仕方も参考になる。
- 12年目：若いっていいな。最初は面倒だなと思っていたけれど、はじめてみて若い教員の考えや姿勢を見れるのが楽しい。
- 19年目：語ること、聞くことが楽しい。悩みや不安を共有できることで、みんなで乗り越えていける気がした。

企画運営する担当者が考える今後の方向性

まずは継続、習慣化する。専任教員が積極的にテーマを出し合い、やりがいを見いだせる会にしていきたい。会を通して共通認識、相互理解につなげ、元気ある職場を目指していきたい。

